

【 第7回 男子ユースアジア選手権 】

2016年8月27日～9月5日 バーレーン・マナーマ

試合結果報告 9 月 5 日 (月)

J P N	VS	B R N(バーレーン)
12	前半	9
11	後半	16
0	第1延長	0
0	第2延長	0
23	合計	25

個人得点

名前	前半	後半	第1延長	第2延長	合計
高光 凌	0	0			0
高野 颯太	0	2			2
浅川 律樹	0	0			0
阿部 奎太	3	1			4
部井久 アダム勇樹	0	1			1
服部 将成	0	0			0
徳田 廉之助	1	3			4
藤川 翔大	0	0			0
村木 幸輝	1	3			4
藤田 龍雅	4	0			4
堀田 陽大	0	0			0
矢野 世人	3	1			4
助安 大成	0	0			0
若狭 圭悟	0	0			0
狩野 優太	0	0			0
					0
					0
					0
合計	12	11	0	0	23

戦評

男子ユースアジア選手権の決勝は地元バーレーンと対戦。グループリーグで引き分けた相手に対し、これまで続けてきたハードなコンタクトDFと、スペースを創り出しそこから積極的に前を狙うOFを徹底することを確認して試合に臨んだ。会場は3,000人を超える大観衆で埋め尽くされ、拡声器を使った応援や地鳴りのような足踏み・ブーイングが飛び交う異様な雰囲気。それでもこの日も日本人応援団はありったけの声を張り上げ選手を勇気づける。前半開始、日本はこの日も好調のGK堀田のセーブから、LW矢野・RW藤田らの速攻などで連取し、試合の主導権を握る。その後も日本は中央を守る高野・阿部を中心としたハードなコンタクトDFを繰り返し、バーレーンを精神的に追い詰めていく。日本のプレッシャーに冷静さを欠いたバーレーンに退場者が相次ぎ、前半25分12-7と日本が優位に試合を進める。前半終了間際、バーレーンのロングシュートとノータイムフリースローからの直接シュートが決まり12-9の3点リードで前半終了。後半、ますますヒートアップする観衆の応援により隣の声や審判の笛も聞こえづらい状況に。そんな中、後半開始からギアを上げてきたバーレーンは、18のサイドシュートなどで連取し12-11と1点差に迫る。ここで日本に連続で退場者が出てしまい、コートプレイヤーが4人となってしまふ。このピンチの状況でも、GK堀田のビッグセーブやLB部井久のロングシュートが飛び出し何とかリードを保つ。しかし、ますます勢いを増すバーレーンが、18のサイドシュートなどで3連取し、ついに15-16とこの試合初めてリードする。そこから一進一退の攻防が続き何とか抜け出したい日本であったが、相手GKの好守によりなかなかシュートが決まらない苦しい展開が続く。後半23分、バーレーンのポストシュートが決まり、ついに20-22と2点差がついてしまふ。その後も日本はPV高野の渾身のポストシュート、キャプテン村木の意地のロングシュートで対抗するが、23-25で敗戦した。勝負所でのシュートの精度・強度といった部分の少しの差が明暗を分けた形となった。今大会続けてきたハードなコンタクトDFは、アジアでも充分通用することが証明できた。また、準決勝での韓国との激戦や、決勝戦のような完全アウェーでの環境の中でも、選手たちは積極的にファイトし続けることができた。多くの収穫と共に課題も得られたので、これからの世界ユース、またその先に向けて取り組んでいきたい。

報告記入者 :

古家 雅之